



The Service Club for the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU

Affiliated with the International of Y's Men's Clubs Chartered 1950

c/o YAMANASHI YMCA 4-11-5. Chuo Kofu 400-0032 Japan
Tel 055-235-8543

国際会長主題:より良い明日のために今日を築く Jennifer Jones (オーストラリア)
アジア地域会長主題:アクション 田中 博之 (東京多摩みなみ)
東日本区理事主題:勇気ある改革、愛ある行動! 山田 敏明 (十勝)
あずさ部長主題:あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために! 赤羽美栄子 (松本)
甲府クラブ会長主題:心機一転、ふみだそう新しい一歩! 標 克明

甲府クラブ
2020年3月会報
●今月の強調目標
BF・メネット

■今月のことば■
私は私ではない私。公のために奮闘する私だ。
李登輝 (台湾の元総統) 丸茂正樹 選

3月例会

日時: 2020年3月24日(火)18:45~
会場: 山梨YMCA大ホール
担当: 会員増強委員会
司会: 仙洞田安宏会員



プログラム

開会点鐘	標 克明会長
ワイズソング・ワイズの信条	
会長挨拶・ゲスト紹介	標 克明会長
次期会長	会長
今月のことば	会員
食前の感謝	
ワイズメンの活動報告	
会員卓話	
「夜間中」	有会員
70周年記念	用会長
ハッピー	
諸報告	
YMCAの歌	
閉会点鐘	標 克明会長

新型コロナウイルスの影響により
3月例会は
中止と致します。

◆◆◆ 巻頭言 ◆◆◆

会長 標 克明

いつもならこの季節は、心がなんとなくウキウキして、楽しくなる予感がするのですが、今年は違います。甲府クラブでの心の支えになっていただいていた布能壽英さんが2月3日天に召されました。例会に出席されると全員と握手され、お元気ですかと笑顔で語りかける姿を思い出します。1月19日に亡くなられた石川博さんと続けて2人のなくてはならない会員をなくしました。そして新型コロナウイルスです。山梨県では2名の感染者が出ていますが、増えてもおかしくない状況です。小中高校の休校、多くの人が集まる施設の閉鎖、ワイズメンの活動も各種活動の中止、延期の決断もされているようです。

甲府クラブ 70周年例会も準備が進みつつあるところです。東京、長野、IBC、DBCクラブから多くのワイズメンに参加していただこうと思っておりますが公共機関を使っただけの移動になりますので、新型コロナウイルスの終息が見えない今、どうするか悩むところです。三月中には決定して、皆様にお知らせしようと思っております。

このように3月に入って滅入る感じですが、春を予感することもあります。2月例会で甲府クラブ新会員の入会式を赤羽あずさ部長に立ち会っていただき行いました。宮川真有(みやがわ まゆ)さんです。ワイズメンズ活動に新風を吹き込んでくれそうな予感がします。またもう一人、ワイズの活動に理解をしてくださる会員候補の方が、例会に参加してくださいました。

5月にはYMCA新館完成、甲府クラブ70周年と明るい話題が多々あります。下を向いてばかりいないで、上を見て進みたいと思います。

3月、弥生の言葉は「他人の働きを大切にすることは、他人の協力を得られる人です」これは甲府クラブ会長選考にも関係する言葉かなと思っています。

2月のデータ

会員数	34名(内広義会員1名)
例会出席	23名 メン 20名 メネット 1名
ゲスト	2名 出席率 61%

2月 例会報告

ピーター・マウントフォード

梅が咲いて、2月11日に甲府ワイズのTOF例会は例年通りに山梨YMCAにて開催されました。今回、入会の予定はありましたが、今年中に山梨YMCAは新会館に移り、この会館では甲府ワイズの最後の集いでしたので、喜びと懐かしさ、感謝とお別れ、複雑な気持ちが浮かびました。加えて、新年例会以降、二人の会員が天に召されて、テーブルの上に花と故石川博さんと故布能壽英さんの顔写真が出席者を迎えましたので、悲しい気持ちが皆の心に広がりました。

会長挨拶で標会長はゲスト赤羽あずさ部部長、故石川ワイズの妻、石川順子さんと、娘の石川楠緒子さん、それに杉田雄二さん（ラ・ロの会）を紹介して歓迎して、故石川ワイズと故布能ワイズの思い出を振り返りました。そして、石川順子さんと石川楠緒子さんは壇上でお話をしました。挨拶が終わると標会長は石川家からのお香典のお返しに御礼をしました。次に赤羽あずさ部部長は挨拶して、今回の例会の複雑なきもちを述べました。

次に宮川真有さんの入会式が行われました。ホールの電灯を半分消して、ロウソクの光に標会長は入会式文を読み上げて、宮川さんは「入会します」としっかり宣言しました。その後、紹介者、石原基平ワイズから宮川さんをユーモアたっぷりに紹介されました。そして宮川さんから元気な自己紹介をいただいて、大きな拍手で皆さんは宮川さんのワイズ入会を歓迎しました。

ここで地域奉仕秋山委員長は早退する前に年間プラタブ等の収集実績を発表しました。そして、ワイズディナーの前に今月の言葉が紹介されて、食前感謝が読まれました。TOF例会で、おむすび二つと丹後ワイズが作った豚汁が出されて、一同一斉に「豚汁がうまい」と評価しました。TOF例会でご馳走が出て、少し違和感があるかもしれませんが、とにかく丹後さんありがとうございました！

ワイズディナーが済んでから5分間の最近の活動プレゼンテーションが行われました。スクリーンに活動風景が映され、参加者は「お正月で遊ぼう」、EMC シンポジウムとあずさ部評議会を紹介しました。その後、甲府クラブ70周年部会に分けて、各部会は5月9日の70周年祝例会と同日のあずさ部評議会の準備状況を討論して、最後に各部会長は現状報告をしました。

諸報告で標会長はプラタブ・エコキャップ収集運動の今限りでの終了を知らせて、期待を高めながら次期会長の発表を3月例会に延期しました。そして、赤羽あずさ部部長は次期あずさ部部長、御園生好子さん（東京サンライズ）を発表しました。2月の誕生日とアニバーサ

リーの発表と誕生日プレゼント贈呈が行なわれた後、皆はハッピー・バースデーと甲府ワイズの歌を歌って、閉会点鐘で標会長は例会を終えました。



Happy Birthday

メネット 鶴田美恵子(18日)

Wedding Anniversary

根津宏次♡恵美(13日) 仙洞田安宏♡克子(27日)

今後の予定

4月14日(火)	4月役員会	山梨YMCA
5月12日(火)	5月例会	談露館
5月26日(火)	5月役員会	山梨YMCA
6月6日(土)	東日本区大会	帯広
6月9日(火)	6月例会	談露館

2月 役員 会 報 告

日時 2019年2月25日(火) 午後6時30分～8時

場所 山梨YMCA 2階

出席者 標、渡辺、荒川、廣瀬、ピーターM、仙洞田
秋山 丹後

プログラム

1、開会あいさつ 標会長

2、報告事項

・2月8日(土) あずさ部第2回西早稲田評議会
東京山手YMCAセンター1階 出席者:標、荒川、廣瀬
今季限りで東京山手クラブ解散。

2020年2月現在あずさ部会員数26名増との事。

・2月11日(火) TOF例会
山梨YMCAセンター大ホール
出席者:メン20名(宮川真有さん含む)
ゲスト:赤羽あずさ部部长、杉田さん(渡辺徳之友人)
大沢祥子メネット、故石川博氏妻と娘。
入会式もあり、70周年の話も進んだ。
丹後さんお手製の豚汁も美味しかった。
3月ブリテンに詳しく。

・2月2日(日)
ピーターM、濟本さんラ・ロの会のバラの剪定協力。

・2月9日(日)
ピーターM、渡辺さんラ・ロの会の土の入れ替え協力。

3、協議事項

今後の例会、イベントはコロナウイルスの広がり方によつては延期あるいは中止もあり得る。

・3月10日(火) 3月例会 担当:会員増強
配席 70周年部会別
会員卓話 宮川真有さん「夜間中学、山梨のいま」

・4月14日(火) 4月例会 担当:地域奉仕
市役所年度末の為、卓話予定者の決定待ち。

・70周年記念例会について
繰り返しになるが、今後、コロナウイルスの広がり方によつては記念例会の延期もありうる。
和歌山クラブの接待は富士山方面を検討中。
台南クラブは例会出席も不可の可能性もある。
山梨YMCA新会館への献品は露木総理事と相談中。
3月役員会で記念例会の開催可否かを決める。

・来年度会長・役員について

3月例会で標会長より提案がある模様。

4、閉会あいさつ 標会長

荒川洋一



Change!2022 シンポジウムに参加して

仙洞田安宏

2月1日(土)、東京YMCA社会体育・保育専門学校において、2022年をゴールとする会員増強運動であるChange!2022プロジェクトのイベントとして企画されたChange!2022シンポジウムが開催されました。参加者は約100名、甲府クラブからは標会長と仙洞田が参加しました。

シンポジウムの内容は、

1. フェイスブック等の活用実践
2. Change!2022アクションプラン4項目の提唱
3. 「16名が36名へ、会員倍増の実践」
4. 新クラブ(千葉ウエストクラブ)設立の動向
5. グループディスカッション

というものでした。
1. のフェイスブック等の活用実践は、現在東日本区の32クラブがフェイスブックページを開設しており、昨年暮れから広告を始めたそうです。3. の「16名が36名へ、会員倍増の実践」では、甲府21クラブの野々垣健五さんが、近年の甲府21の会員増強の実例を説明されました。グループディスカッションでは、アクションプランの4項目について、9名前後のグループで話し合いが行われました。アクションプランは以下の4項目です。

1. 地域に根ざしたワイズ独自の魅力あるCS活動
2. FacebookなどのSNSを活用してのワイズの外向きの情報発信
3. 各種会合のキリスト教の儀式を見直し、全ての人が入りやすいクラブ運営、違和感のないプログラム、入りたくなるワイズを!
4. 5名以上の新クラブの奨励、奉仕・社交・研鑽・居場所・ステータスなどを満たせるクラブ。若い人を引き付けるプログラム。

現在新クラブ設立活動中ですが、このシンポジウムに参加して大いに勇気づけられました。



第二回あずさ部 西早稲田評議会に出席して

廣瀬 静男

2020年2月8日(土)、会場は高田馬場駅に近い東京YMCA山手コミュニティーセンター、出席者は標、荒川、廣瀬の3名。13:00赤羽あずさ部長の開会点鐘で始まり、ワイズソング、ワイズの信条に続き聖書朗読、祈祷は小畑担当主事。引き続き評議会、議決権者52名中45名出席、司会は金井書記、初めの赤羽部長の挨拶では去年の台風19号による災害被災地への東日本区、各クラブの支援に対する感謝の言葉、期初171名の会員数が1月1日現在180名になった、2月1日の東日本区Change!2022シンポジウムのこと等の報告がありました。議案審議では次年度次期部役員の承認等4つの議案が承認されました。部長よりこれまでの活動報告、東日本区役員会の報告がありました。各事業主査の活動報告に続いて、各クラブ会長の報告。甲府クラブの標会長は甲府クラブにとってクラブの宝でもある布能壽英会員、石川博会員のお二人が急逝されたこと、2月に入会式を予定していること、山梨YMCA新会館が完成すること、70周年記念例会のこと等の報告をしました。最後に山梨県立大学国際政策学部総合政策科2年の藤井うららさんの7月に行われた国際ワイズメンズクラブアジア太平洋地域大会でのAYC(アジア地域ユースコンボケーション)への参加報告がありました。内容はプラスチックゴミの削減を目的とする「今日からできる環境問題へのワンアクション」についてでした。全員で記念撮影後、次期あずさ部長の御園生好子さんの乾杯で懇親会が始まりました。お茶とお菓子で歓談、和やかで、楽しいひと時でした。アピールタイムでは甲府クラブは5月9日(土)の甲府クラブ創立70周年記念例会のアピールをしました。全員であずさの道を歌い、17時に閉会となりました。本評議会ホストクラブの東京たんぽぽクラブは会員数7名の小さなクラブですが非常にチームワークがよく、全員が役目をしっかりと果たしていると感じました。



YMCA
たより

将来の栄光に備えるために
必要な試練

露木 淳司

2019年度の締めくくりは新会館の竣工と新規事業のオープンという華々しい門出に向けて、夢いっぱいの中で幕を下ろすはずでした。ところが皆様ご存じの通り、今年の年度末は、新型コロナウイルスの話題で持ち切り。ついには全国一斉の学校休校という前代未聞の非常事態に陥りました。YMCAの事業も継続が危ぶまれ、非常勤スタッフの一部は仕事を失いかけています。休むべきだ、やるべきだと、スタッフの意見も保護者の反応も二分され、正に大混乱。進級、卒業に伴うイベントはことごとく中止。春休みの野外プログラムも壊滅状態です。YMCAの運営も東日本大震災の時以来の大ピンチですが、こんな時こそ私たちは今やるべきこと、寄り添う相手を見誤ることなく、落ち着いて自信をもって歩みを進めていくべきです。そしてぶれることなく、FOR ALLをモットーとする新会館をオープンさせ、明日の山梨を明るい地域共生社会に変えていくよう、全力を注がねばなりません。本館の竣工は4月末、5月1日開業します。0,1,2才児のための「野の花保育園」、デイサービス「オリーブの木」が新たにスタートします。「現在の苦しみは、将来わたしたちに現わされるはずの栄光に比べると取るに足りない」(ローマの信徒への手紙8-18節) そう聖書が示すように、この苦しみは神様が私たちに必要なだけ与えてくれる試練なのだ、とポジティブに受け止め、しっかりと向き合っていきたいものです。2020年度は甲府ワイズは70周年、甲府21は30周年の大きな節目の年です。そんな年を新会館で迎えられる、こんな幸せな偶然は他にあるでしょうか。これからもYMCAは皆様と共にあります。5月2日に献堂式、6月には定期総会、11月にはバザーとチャリティーラン、すべてが盛会に終わりますように心よりお祈り申し上げます。





追悼 布能 壽英さん

甲府クラブ会員の精神的支柱でもある布能壽英さんが、去る2月3日、92歳で天に召されました。布能さんは、甲府クラブのチャーター翌年の1951年2月に入会、1961年クラブ会長、1975年日本区Yサ事業主任、1986年東部部長でエルマー・クロウ賞受賞、2009～2010年度の東日本区奈良傳賞を受賞されました。

山梨YMCA関係では、1990年から1999年まで常議員会議長、1999年から2004年まで理事長を務められました。また、1993年に「財団法人布能育英会」を設立、同年紺綬褒章、1999年県政功績者表彰、2009年にキリスト教功労者顕彰を受けられています。

布能壽英ワイズメンごきげんよう！

大澤 英二

私どもの敬愛してやまない布能壽英さんは2月3日天に召されました。92歳でした。

最後にお目にかかったのはご召天三日前の1月31日でした。その時のお言葉は「Yをよろしく。ごきげんよう」でした。これが最後の言葉になりました。YとはもちろんYMCAとY's Menのことです。生涯をYのために捧げ支えてくださった先輩にふさわしい有難い味わい深いお言葉でした。

山梨の人々には「くろがねや」の社長さんで経営者として高い評価を受けておられた方でした。Yのことについては仙洞田さんが「甲府ワイズ物語」(布能著)を甲府クラブのアーカイブスに収録しておられますので是非お読みくださることをお勧めします。思いつくままに個人的な思い出を少し記し、責めを果たさせていただきます。

身近といえば長年毎週日曜日甲府教会の礼拝で一緒でした。布能さんの左隣に座って礼拝を守りました。当時、布能さんは毎朝お宅から愛宕山頂上まで歩き皆さんと体操して帰宅の習慣でした。早天祈祷会も一緒に、会後の朝食で雑談が楽しかったです。英和中高の教頭だった小方喜羊先生が愛宕町の功刀先生宅で聖書研究会「小方塾」を開かれていて一緒によく出席し、キリスト教のこと、社会問題など自由に話し合い啓発されました。ワイズの国際大会にカナダ・アメリカを二人で旅行し、当時世界最大級のウエスト・エドモントン・モールを手始めに各所を回り、IBCのハリスバーグ、パロアルトクラブも訪問し、バナーを交換し、かつて在日の諸先輩友人との再会を果たしました。ドワイトさん、ハンセンさん等々。

字数が足りません。“布能さん、ごきげんよう”。

布能壽英さんへの感謝

鈴木 健司

布能さん、60年余りのご交誼、ご指導、お励ましをいただき本当にありがとうございました。今回ここに、布能さんが私に示してくださった尊いご指導の思い出を記し、布能さんがどのような方であったかを知ってもらいたいと思います。

私が社会人になって一年目のYMCA職員の時でした。YMCAの受付で預かった英語教室の授業料を盗まれてしまいました。数人の生徒会員のものでした。この相談の為に私は「くろがねや」の布能社長(YMCAの会員であった)の店に駆け込みまして、事の一部始終を話し、どうしたらよいか相談しました。その結果で覚えていることは次の通りです。布能さんは考えていま

したが店の奥の部屋から出て来て「私は急に金が必要になった時の為に用意しているものが少しある。その金を使って払いましょう。」と仰りながら盗まれて失った分の金額を私に渡してください、「この事は他の誰にも言わないこと。いいですね。」と私に念を押しました。YMCAは布能さんの援助を受け、私は心配していた責任を問われることもなくなりました。この出来事を通して、明らかに私のYMCA理解は改まり、YMCAという働

きが大切なものであり、YMCAは布能さんのような秀れたお考えの方々によって運営される青少年の為の存在であることを理解しました。また、布能さんは小さな事であっても、その事の本質は何であり、それを解決するためには何が必要なのかを考える人格者であることを知らされました。私は本当に赦されたのだと思いました。これが布能さんが私に示したことだと確信しています。

温厚篤実で誠実なる信仰者、YMCAに対する深い理解者で支援者である方、常に理想に向かい努力する人で熱心な奉仕者でした。このような布能壽英様との出会いを導いて下さった神様のみ恵みに心より感謝しています。布能壽英様、神の御許で安らかに在らんことを祈ります。



布能壽英兄を偲んで

濟本 文雄

布能壽英兄が天に召されたことを知り大きな支えを失った喪失感を今もぬぐえません。教会員の先輩として、ワイズメンの先輩として、あるいは事業家としての先輩として、譬えようもない大きな存在として常に私の追いつくことの出来ない先を歩んでおられました。

そんな敬愛する先輩に些細な事まで気にかけていただき恐縮すること限りがありませんでした。

熱海の国際大会、慶州のアジア大会への出席、兄が東部部長をされた年度は、書記として各部に同行させていただき多くを学ばせていただきました。兄曰く、人間社会に最後まで残るのは教会とYMCAであり、二つは共に神の御手によって創られ人間に与えられた地上最終の「すみか」であると断言され、強い意志と信仰心に裏打ちされ信念をもって活動されてきました。ワイズ在籍69年、多大な功績を積み上げてこられました。

そんな中でも月に一度の麻雀は他愛無い楽しみのひと時でした。石原祥平兄、田中司郎兄と4人で囲む時間は時を忘れさせ子供のように興じていました。勝負事はその人柄をよく表すといわれます。布能兄は全く変わらぬ平常心で決断力の鋭い打ち方をされました。



【2012年10月例会にて、濟本(左)・田中(中央)両会員と】

会場の富士屋ホテルへの送迎は私の車でしたが、必ず助手席へ座られました。私は事故で怪我でもされては大変と後部座席を勧めますが聞き入れられませんでした。車中の二人だけの会話は何時までも続けたいほど心温まるものでした。

闘病中何度かお見舞いさせていただきましたが、帰りには臥せて居ながらも私のために祈りを捧げていただきました。室内には先に天に召された、くに子夫人のお写真が架けられ、優しくお声をかけていただいたと感じ、心なやまされました。

お二人は神様のもと再会し、天上での会話を楽しんでおられることでしょう。布能壽英兄、誠にありがとうございました。

握手の人 布能壽英さん

田草川すみ江

布能さんに初めてお目にかかったのは65年以上も前、私が小学生の時、日本基督教団甲府教会に通い始めた時です。はつらつとして、テキパキと事を運びそこにはいつも穏やかな笑顔がありました。その頃は大きな会社の偉い方であるとは少しも知らず、普通にお話をしていました。私はいつも面と向かってお話をする時は「布能 壽英さん」とフルネームで呼ばせて頂きました。いつの頃からか教会で、ワイズで、町で、お目にかかった時には笑顔と共に暖かい握手をして下さいました。困ったとき、不安な時、喜びの時、悲しい時、どんな時にも布能さんの手は暖かく、その場その場を包みこんで下さり、心がフワッと暖かくなって元気を頂けるのでした。

布能壽英さんからは沢山の宝物を頂きました。それは目に見えるものであったり、目に見えない物であったりするのです。ある朝、突然電話が鳴り、出てみると布能さんでした。「すみ江ちゃん、今日は貢さんの25回目の昇天記念日だね。貴女もよく頑張ったね。祈っているよ。」ほんの短いやり取りですがいつも節目、節目には電話や葉書を下さり元気を頂くのでした。布能さんの手帳には小さな字でスケジュールと共に沢山の名前が書いてありました。その方々の記念の日には電話やお手紙を書かれていたのでしょうか。大勢の方々がその贈り物でどんなにか心が暖かくなったことでしょう。あの布能壽英さんの穏やかな笑顔が忘れられません。

今は天国で、くに子夫人と共にゆっくりとお話をしていることでしょう。又、先に天国に行かれた、先輩方とにこやかに握手をしていらっしゃるかな？

布能壽英さん、沢山の贈り物を有難うございました。ご冥福をお祈り致します。 安らかに…。



【2010年6月長野クラブ設立総会にて、石原祥平会員と】